# 町村週報

（町村の購読料は会費の中に含まれております）

2839号

毎週月曜日発行

発行所　全国町村会　〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486　FAX03-3580-5955

発行人　山中昭栄：定価1部40円・年間1,500円（税、送料含む）　振替口座00110-8-47697　http://www.zck.or.jp


もくじ


活動　TPP交渉参加に関する意見書を提出＝全国町村会……（2）

活動　地方公務員給与についての要請のため、地方三団体と総務大臣が面会＝地方六団体……（4）

フォーラム　りんごにこだわった町づくり～小さな町の大きな挑戦～＝山形県朝日町……（5）

情報　町村Navi……（9）

随想　『魅力と活力のある、輝く町』の実現に向けて……佐賀県玄海町長　岸本　英雄……（10）

洞爺湖壮瞥公園（北海道壮瞥町）

コラム

## 歴史・風土・文化を今に伝える

日本大学経済学部教授　沼尾（ぬまお）　波子（なみこ）

在外研究でオランダに滞在している。泥地・湿地、そして海を干拓し、国土を創り上げ、一七世紀に東インド会社による貿易を通じて、巨大な富と繁栄を築き上げたオランダ。その歴史や風土、文化を知りたいと言ったところ、地元の人が、面白い「博物館」があると、エンクハウゼンという町に連れて行ってくれた。

この町には、ゾイデル海博物館として囲まれた一角がある。海に堤防を築き、国土を作り上げたオランダの歴史と、そこに生きる人々の生活・文化・技術を次世代に伝えるべく、漁師町を形成する住宅・作業場・学校・教会など一式が移築され、人工的な町が「博物館」という名で維持管理されている。

日本でときどき見かけるテーマパーク型の空間と異なるのは、その中の一部の住居に人々が今なお居住し、それらの施設や技術、文化、風習が、今日においてもなお生き続けていることが分かるよう、運営上の工夫が図られていることである。

例えば、漁師とその家族が、伝統的な衣・食・住で生活を営みながら、同時に観光客に、その暮らしの一コマを解説する。さらに、縄綯いや魚網の手入れ、昔遊び、石鹸での洗濯など、生活に必要な知恵や技術を子どもに伝えるプログラムもふんだんに用意されている。

地域の風土と、そこで育まれた技術や文化を守り、育て、次世代に伝える。そのための社会インフラが、実にしっかりと構築されている。ただ単に施設をつくって、出土品や芸術作品を展示するだけではない。実際にそれらの展示品の背後に見え隠れする技術を使って何かを体験したり、考えたりする機会が用意されている。歴史や伝統と今日の暮らしの連続性を次世代に伝えるための「博物館システム」が構築されているといっていい。

これら施設の整備や、プログラムの構築等は国主導で行われるが、実際の施設維持管理や、運営の工夫は、生活文化・技術が根付く地元が担う。国と地方の連携によって、地域に根付いた技能や文化、伝統が保存・継承され、その積み上げによって、国の歴史、国民の暮らしが次世代に伝えられていく。

地域づくりの積み重ねと国家発展とは切り離すことができない。「博物館」と称する空間で目を輝かせ、縄綯い機、燻製などの技術を活用した生活の一コマを体験する子どもの姿をみながら、「博物館システム」と、それを支える国・自治体の連携の在り方について考えさせられた。

⊙写真募集⊙

表紙に掲載する写真を募集しています。採用者には、粗品を差し上げます。

写真には撮影者の住所、氏名及び撮影場所・日時を明記して下さい。

なお、採否は当方に一任願います。

送り先：全国町村会・広報部

# ＴＰＰ交渉参加に関する意見書を提出

全国町村会

全国町村会は4月24日の正副会長会において、「ＴＰＰ交渉参加に関する意見書」を取りまとめ、政府・与党に対して要請活動を行った。

これは、３月の安倍首相のＴＰＰ交渉参加表明を受け、４月３日に政務調査会経済農林委員会を臨時に開催し政府側との協議などを経て取りまとめたもの。

藤原会長と経済農林委員会の委員が参加し、世耕弘成内閣官房副長官、衛藤征士郎自民党外交・経済連携本部長、小里泰弘同政務調査会農林部会長、土屋正忠同総務部会長と面談し手交した。

▲世耕内閣官房副長官（写真上・前列左から３人目、写真下・左）

▲小里自民党政務調査会農林部会長（右）

▲衛藤自民党外交・経済連携本部長（中央）

▲土屋自民党政務調査会総務部会長（中央）

## 要請活動参加者

藤原忠彦　会長（長野県川上村長）

**経済農林委員会**

有岡正幹　委員長（高知県安田町長）
佐藤正博　副委員長（福島県西郷村長）
谷口友見　副委員長（三重県大紀町長）
越善靖夫　委員（青森県東通村長）
宮前鍬十郎　委員（群馬県神流町長）
角野幹男　委員（山梨県昭和町長）
杉本博文　委員（福井県池田町長）
横山光明　委員（愛知県設楽町長）
戸田善規　委員（兵庫県多可町長）
中山正隆　委員（和歌山県有田川町長）
河島建一　委員（岡山県久米南町長）
一瀬政太　委員（長崎県波佐見町長）
椎葉晃充　委員（宮崎県椎葉村長）
平安正盛　委員（鹿児島県知名町長）

## 活　動

この中で、藤原会長は、①これまでＴＰＰ交渉への参加反対を求めてきており、今回の参加表明は遺憾であること、②国益が確保できない場合は速やかに脱退の決断をすること、③最終合意の決定前に国民に情報を開示し、説明責任を果たすこと、④ＴＰＰの参加による都市と地方の格差の拡大への懸念に対し国土の均衡ある発展について長期計画を策定すべきであることを強く申し入れた。

これに対し、世耕官房副長官は、「安倍総理は国益は何が何でも守ることを明言しており、国会でも国益が守れないならば交渉から撤退すると答弁している」と説明し、交渉参加にあたっても「米国側に日本の農産品にはセンシティビティがあり、関税を全て撤廃するものではないことを認めてもらっている」と述べた。

また、衛藤外交・経済連携本部長は、「ＴＰＰの他にもＦＴＡＡＰやＲＣＥＰなどアジアを中心とした経済連携が動き始めており、ＴＰＰのルールが下敷きになろうとしている」とし、「ＴＰＰに参加しようとしまいと将来の日本の農業・農山村を守る体制を作らないと行き詰まってしまうという思いがあり、その中で農産品の５品目を守り抜くことで努力している」と述べ、さらに「ＦＴＡＡＰやＲＣＥＰの動きもある中で、ＴＰＰの参加で孤立してしまい何の取り分もなかったというようなことにならないようにしたい」等と述べた。

また、小里農林部会長は、「従来からＴＰＰには慎重な立場をとってきており、日米首脳会談後、党の決議を守るよう官邸に要請し、衆参の農林水産委員会も同様の決議をしている」とし、「この決議に背くような交渉はできないはずでありこれから活きてくる」と述べ、さらに「政府与党一体となって交渉を乗り切りたいが、地方の声が支えになるので、今後とも声を上げ支援して頂きたい」等と述べた。

さらに、土屋総務部会長は、「ＴＰＰは22分野について共通のルールを作ろうというものであり、アメリカンスタンダードになっては困るし、国民皆保険などもしっかりと守りたい」とし、「市長を経験し、町村なくして都市は成り立たないというのが持論であり、守り抜くものはしっかりと守りたい」等と述べた。

平成25年４月24日

### TPP交渉参加に関する意見書

地域経済・社会の崩壊を招くTPP参加には絶対に反対であると繰り返し主張してきた我々の声を無視して、先月、政府は、TPP交渉への参加表明を強行した。

TPP交渉参加の判断にあたっては、非関税障壁の見直しを含めた広範囲に及ぶ影響試算の開示や、食料自給率目標を50%まで引き上げるとしていることとの整合性等について、国民に対し具体的に説明することが前提であったにも拘わらず、これらを考慮することなく参加表明に踏み切ったことは極めて遺憾である。

我々は、我が国の農山漁村の将来を憂慮する観点から以下の意見を取りまとめた。今後、政府においては、その趣旨を踏まえ、いささかも我が国の国益を損なうことのないよう毅然として対応するよう強く求めるものである。

**１　交渉からの早期脱退の決断**

TPP交渉の後発参加国は、既存合意の修正が不可能だけでなく、新規提案すらも困難であると報道されている中、農林水産物の関税や国民皆保険制度等数多くの「国益」を確保できる可能性が極めて低いことは明白であるため、「国益」を確保できないと判断したならば、速やかに交渉から脱退することを決断する必要がある。

**２　交渉継続の場合、国民への説明責任**

我が国が、TPP交渉の最終合意まで交渉を続けるとの方針を決定する場合、その決定の前に、不安を抱える国民に対し、数多くの「国益」が十分に確保できたことについての説明責任を果たす必要がある。なお、外交交渉であるため、国民に情報を開示できないという立場を政府が取るとするならば、国民の不安をさらに強めることを認識すべきである。

**３　国土の均衡ある発展の再構築**

国土の４割に立地する全国930の町村は、これまでも財政難、過疎化等により疲弊の度を強めているが、我が国がTPP参加により輸出偏重をさらに強めるとした場合、都市への人口集中と地方の過疎化が一層加速化されることになるので、国土の均衡ある発展に関する長期計画を策定する必要がある。

# 地方公務員給与についての要請のため、地方三団体と総務大臣が面会

## 地方六団体

地方六団体のうち全国知事会・全国市長会・全国町村会は4月22日、地方公務員給与についての要請のため新藤総務大臣と面会した。本会からは藤原会長（長野県町村会長・川上村長）が出席した。

▲新藤大臣（左）に要請する藤原会長（右）

これは、本年7月からの地方公務員給与引き下げを前提とした改正地方交付税法が3月29日に成立し、国の措置が固まったことを受けて、今回の措置が例外的・時限的な措置であることを確認をするとともに、今後の地方公務員給与のあり方について、検討の場を設け、地方六団体と十分協議するよう要請を行ったもの。

要請では、今回の措置は、地方固有の財源である地方交付税を、給与引下げの要請手段として用いたと受け止めざるを得ず、また、「国と地方の協議の場」が一度しか開催されず、協議を尽くさないまま国の措置が決定したことに対し、過去に例を見ない異例な対応とした上で、今回の措置は東日本大震災を受けた臨時異例の措置であることを確認するとともに、今後、地方公務員給与のあり方について検討する際には、国と地方で検討の場を設け、十分協議を行うよう強く申し入れた。

藤原会長からは、「町村は、長い間、ラスパイレス指数は95程度で推移してきている。総務大臣には、地方の努力をご理解いただき、政府内においてしっかりと主張していただきたい」と要請した。

要請に対し、新藤総務大臣からは、「今回の措置については、平成25年度に限った臨時異例のものであり、地方公務員給与の今後のあり方については、総務省と地方側とで検討する場を設け、意見を伺いながら検討したい」と回答した。

### 地方公務員給与についての要請

平成25年度の地方公務員給与については、本年1月に貴職が要請された、7月からの給与引下げを前提とした改正地方交付税法が去る3月29日に成立したところである。

今回の措置は、東日本大震災に対処する必要性にかんがみ国家公務員の人件費の削減を行い、また、限られた時間の中で予算編成に取り組むなど、極めて特殊な状況の下で行われたとはいえ、地方固有の財源である地方交付税を給与引下げの要請手段として用いたと受けとめざるを得ず、地方のこれまでの人件費抑制の努力を考慮することなく、ラスパイレス指数の単年の比較のみに基づき、本来、条例により自主的に決定されるべき給与について引下げ要請が行われたことは、あってはならないことである。

また、「国と地方の協議の場」は一度しか開催されず、地方側と協議を尽くさないままこのような措置を国が決定したことは、過去に例を見ない異例な対応と言わざるを得ない。

我々としては、改正地方交付税法の成立を一つの契機に、今回の措置が東日本大震災を受けた例外的・時限的な措置であることを確認するとともに、こうした問題の対処に当たっては、国と地方の協議を十分経ることが必要であり、今後、地方公務員給与のあり方について検討の場を設け地方六団体と十分協議を行うことを、要請するものである。

**地方六団体**

全国知事会会長　山田啓二
全国都道府県議会議長会会長　山本教和
全国市長会会長　森　民夫
全国市議会議長会会長　関谷　博
全国町村会会長　藤原忠彦
全国町村議会議長会会長　髙橋　正

フォーラム

現地レポート
地域資源を活かした活性化策

# りんごにこだわった町づくり

## ～小さな町の大きな挑戦～

朝日町は山形県の中央部に位置し、磐梯朝日国立公園の主峰・大朝日岳の東縁山麓地域にあります。町の面積は196・73㎢で最上川が町域の南北を約21㎞にわたって蛇行北流し、国立公園をはじめとする原生林野が町土の76％ほどを占め、豊かな自然環境と澄みきった空気に包まれ、世界で唯一の「空気神社」のある町です。

最上川の両岸に沿った河岸段丘は、特産のりんごなどの果樹をはじめ農産物の栽培に適した肥沃な土地です。

町の産業構造は第1次産業就業比率の減少、第2次・3次産業就業者の漸増で推移していますが、りんごを中心とする農業を基幹産業として位置づけ、りんごにこだわった町づくりを進めています。

### 朝日町りんごの歴史

りんご栽培の歴史は古く明治20年にさかのぼりますが、朝日町りんごの銘柄が確立されたのは、昭和46年に全国に先駆けて「無袋ふじ※」の栽培技術を確立し、中央市場で品質日本一の評価を得たことです。このことがはずみとなり、米の生産調整対策としてりんごを奨励すると共に、農業構造改善事業等で大規模な樹園地造成を全町的に展開し、朝日町農業の基幹作物として様々な振興方策が展開されてきました。

また、りんごにこだわった町づくりを進め、平成元年には「日本一りんごの町宣言」、平成16年には町条例で「朝

△町内のりんご農園。国内外で高い評価を得ている「無袋ふじ」

日町りんごの日」を定めるなど、町民一丸となってりんご振興に力を注いでおります。

※無袋ふじ…りんごは病害虫防除や着色管理の点から、袋をかけて栽培していたが、袋をかけなくても着色や味の優れたりんごを栽培する技術。ふじの品種でその技術を全国に先駆けて確立した。

## りんごは町経済のバロメーター

農業が基幹産業の朝日町にとって、りんごの売り上げは町経済を大きく左右するといっても過言ではありません。かつては品質が良ければいくらでも高い価格での販売が可能な時代がありましたが、バブル崩壊後の平成9年にりんごの価格は全国的に大暴落の危機を迎えました。町ではりんご価格の暴落が様々な方面に影響がでることを懸念し、この危機を乗り切るために品種構成の見直しなどのりんご振興策に大規模な予算を投入しました。

特に中生種（9月下旬～10月収穫）は数多くの品種が農家にばらばらに導入され品種ごとの量は少なく、栽培技術の統一もないため品質は不揃いで、安定した価格での販売は難しい状況でした。このような状況をふまえ、品種構成の適正化について農家の方と真剣に検討を行い、シナノスイートをはじめとする新品種の導入方針を決定し、町の財政状況が厳しい中、約三千万円がりんご振興に支出されました。苗木の導入、栽培技術の確立と普及、消費宣伝など農家・農協・行政が一体となってアクションを起こした結果、シナノスイートは路頭に迷うりんご農家の救世主となり、今では中生種の核として農家所得の向上に大きな役割を果たしています。

## 攻めの農業戦略！

次なる挑戦は、沈滞するムードを払拭し生産者に元気を出してもらうため、輸出による所得向上をめざすという攻めの農業展開を目指しました。田舎の小さな町が単独で輸出を行うことなど夢のような話で、最初は各大使館に手紙を書いたり、フランス大使館に直接りんごを持ち込み輸出をお願いしたりと今となっては笑い話のようなこともありましたが、自分たちの足で行動しながら情報収集し、平成16年にジェトロの指導をいただき国内の商社を通じ台湾に「ふじ」を輸出し、夢の第一歩を踏み出しました。

国内で高い評価を得ている当町のりんごは海外でも高い評価を得られるだろうと思っておりましたが、台湾の中では、りんごといえば絶対的に青森県がブランドになっており、当町のりんごは品質的には優れていても価格では買いたたかれ、改めて海外でのブランド戦略の必要性を認識しました。

平成17年には台湾でのブランド確立を前提に輸出を検討していたところ、前年の状況を把握していた山形県経済国際化推進協議会（現山形県国際経済振興機構）から高級百貨店での贈答品の販売を紹介され試験的に輸出を行いました。その結果、朝日町りんごの品質、食味、特に「蜜入り」が非常に高い評価を得ました。

りんごの時期には、朝日町りんごを紹介する中国語版のDVDの映像が売り場で放映され、生産者が自ら店頭に立ってのプロモーションや町長によるトップセールスを継続した結果、その品質が高く評価され、当町のりんごは台湾で消費者や流通関係者の間でトップブランドとして認知されるようになりました。

この台湾でのブランド確立を契機に、タイ、シンガポール、香港、フィリピンなど輸出国も拡大され、品種もふじだけでなく、シナノスイート、王林、シナノゴールドさらにはラフランスまで輸出できるようになりました。

小さな町の大きな挑戦は、マスコミ

▷台湾での町長によるトップセールスの様子

◁山形市で行われるりんごキャンペーン

フォーラム

の目にも留まり、毎年現地でのプロモーションの様子が新聞等で大きく紹介されるようになりました。

## 輸出の波及効果

朝日町りんごは、無袋ふじ栽培技術の確立により市場で日本一の評価をいただき、生産者や市場関係者の間では銘柄産地としてのブランドが構築されてきました。しかし、このブランドもなかなか消費者まで浸透するものではありませんでした。朝日町ではりんごの素晴らしさを直接消費者に伝えるため仙台市や山形市で長年にわたり「りんごキャンペーン」を行ってきました。

▷にぎわう朝日町産業まつり

また、町内にも直売施設ができ、お客様が産地で直接りんごを買い求めることができるようにもなりました。

さらに朝日町りんごの輸出の話題は、毎年マスコミで大きく取り上げられ消費者の目に留まる機会が非常に増えたこともあり、秋になるとりんご購入のため朝日町を訪れる方が急激に増加し、最盛期には交通渋滞が発生するほど膨れ上がりました。流通関係者だけでなく消費者にも朝日町りんごのブランドは浸透したのです。

町では農業、商業、工業、観光の産業が一体となり朝日町をPRする「産業まつり」を11月の「朝日町りんごの日」に開催しています。かつては町内のお客様が中心の2日間で2、000人程度の入込のイベントでした。

▷産業まつりで行われるりんご釣り

輸出が始まりマスコミで取り上げられるようになったころからお客様の数は増えはじめ、平成24年度は12、000人を超え、しかも町外、県外のお客様が中心の活気あふれるイベントに大きく様変わりしてきました。お客様はりんごだけでなく朝日町の様々な産物や商品を買い求め、さらに町内の飲食店等を訪れるようになり、町全体に大きな経済効果を生み出すようになってきました。

生産者がおいしいりんごづくりのために続けてきた地道な努力と、町民一人一人の朝日町りんごに対する誇りと自信が、交流人口の増加という大きな実を結んだのです。

◁「りんご品評会」町内のりんご農家が育てた「ふじ」を対象に毎年産業まつりと同時に開催される

## 強みを活かした町づくり

朝日町の最大の強みである農業を活かした町づくりの次なる挑戦は、付加価値をつけた農産物の販売や交流人口の増加による町の活性化です。

町では、国内経済が低迷し現実的に企業誘致も難しい状況をふまえ、雇用の創出を目的に朝日町産業創造推進機構を立ち上げ、農家の起業支援等の対策に取り組み始めました。農産物の加

工や、新たな農業展開を模索している農家を集め、マーケットや商品開発、衛生管理まで座学や実践研修を行いました。

その結果、特産のりんごを活用したジャムやスイーツ、味噌などの発酵食品、食肉加工、無農薬野菜の栽培そして肉質のよい放牧豚の飼育など多岐にわたる9つの小さな企業がたちあがり、地元での販売はもとより仙台圏を中心とした販促活動を行っています。

こうした活動は、りんごを中心とした農産物や加工品の有利販売だけでなく、町の資源を活かした観光と一体になり、交流人口の増加による町の活性化をめざすという発想に発展し、現在総合交流拠点施設整備をめざし、町民による活発な意見交換が行われています。

また、農業後継者の確保は全国的な課題ですが、日本一のりんごを守りたいという農家が農業研修生を積極的に引き受ける組織を立ち上げました。このことにより日本一のりんごづくりをめざす若者が町外からも集まり、新たな農業後継者として大きな期待を背負ってりんごづくりに奮闘しています。

朝日町の最大の強みであるりんごを活かした「小さな町の大きな挑戦」はこれからも続いていきます。

朝日町長　鈴木　浩幸

▷朝日町産業創造推進機構による新商品発表会の様子

◁りんごを餌に放牧している「あっぷるニュー豚」

## 第35回『都市問題』公開講座

### （公財）後藤・安田記念東京都市研究所（旧・東京市政調査会）

# 見果てぬ夢か？道州制

『都市問題』公開講座は、公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所（旧・財団法人東京市政調査会）の発行する月刊誌『都市問題』の特集などから時宜に適ったテーマを選び開催しています。

第35回は次のような趣旨により、「見果てぬ夢か？道州制」をテーマとして開催いたします。多数の方々のご参加をお待ちしております。

**【開催趣旨】**

制度実現の前提として基本法の法制化が急速に進みつつある道州制。明治以来続いてきた都道府県制を廃止し、国のかたちを変えることによって、はたして、地方分権が進み、地方が活性化する起爆剤となるのか。戦前から数多くの構想が生まれては消えていったが、いまでも自治体の首長間で導入の賛否は割れ、国民の間でも具体的な方向性に関する合意は存在しない。

数年ぶりに脚光を浴びている道州制の意義と課題について、賛否両論の立場から議論を行って、理解と関心を深める。

**1、日　時**

2013年6月8日（土）
13：30～16：30

**2、場　所**

日本プレスセンター　10階ホール
（〒100－0011東京都千代田区内幸町2－2－1）

**3、プログラム**

〈基調講演〉
大森　彌氏（東京大学名誉教授）
〈パネルディスカッション〉
浅野　史郎氏（神奈川大学教授・前宮城県知事）
工藤　裕子氏（中央大学法学部教授）
谷　隆徳氏（日本経済新聞論説委員兼編集委員）
田村　秀氏（新潟大学法学部長）
新藤　宗幸（後藤・安田記念東京都市研究所研究担当常務理事）〈司会〉

**4、参加費**：無料

**5、参加申込み**

後藤・安田記念東京都市研究所ホームページ（http://www.timr.or.jp）からお申し込みください。

**6、申込み期限**

2013年6月6日（木）
※満席となりしだい受付を終了しますので、お早めにお申し込みください。

**問合せ先**

後藤・安田記念東京都市研究所　研究室
TEL：03－3591－1261
FAX：03－3591－1279

# 随想

## 『魅力と活力のある、輝く町』の実現に向けて

佐賀県玄海（げんかい）町長　岸本（きしもと）　英雄（ひでお）

佐賀県玄海町は、東松浦半島の西部中央に位置する人口約6300人の小さな町です。

玄界灘に面したリアス式海岸は、玄海国定公園に指定されています。基幹産業は農畜産業と漁業で、米作、ハウスミカンやいちごの施設栽培、畜産業、鯛などの養殖漁業が盛んに行われています。この玄海町に原子力の灯がともったのが、今から38年前のことです。昭和50年に1号機が、平成9年には4号機が営業運転を始め、いまや九州全体の約30％の電気を生み出す、九州で最も大きな電気の生産地となりました。当時の玄海町は農漁業以外の就労の場が少なく都会への就職人口流出などによる過疎化が進み、著しい人口減少が続いていました。しかし、先人達の大きな決断により原子力発電所というまさに一大企業誘致が行われました。このことは、玄海町の経済状況や生活環境に大きな変化をもたらしました。原子力発電所に関連する仕事に携わる人が増え、人口減少にも歯止めが掛かりました。また、電源三法交付金事業により、道路、水道施設をはじめ、産業、福祉及び教育文化施設など様々な公共施設が整備され、中でも農業、漁業の基盤整備により経営の安定が図られました。

玄海町は、エネルギー資源に乏しい我が国のエネルギー政策に大きく貢献し支えてきたと自負致しております。その様な中で、私が町長に就任して4年目の平成23年3月11日第1回定例会議の一般質問中に東日本大震災は発生いたしました。まさか、日本の原子力発電所がメルトダウンをおこすなど考えてもみなかったことが現実に起こり、大変ショックでもあり気が滅入る日々を過ごしました。議会では、福島第一原子力発電所事故後、最初に再稼働の容認をして頂きました。これは、安全を第一に考えた上でも玄海原子力発電所は他の国内の発電所より地震も少なく立地的に安全であり、原子力発電の再稼働は国民経済にとっても重要であると判断されたものであると考えております。このような判断をして頂いたことは、大変ありがたいことだと思いました。しかし、当時の菅総理の「ストレステスト」実施の表明により白紙状態に戻ったわけであります。その後、現在、4機ある全ての原子力発電が停止のままになっており、再稼働の目途は立っておりません。政権が交代し、原子力発電ゼロの空気は和らいで来ておりますが、今後のエネルギー政策の見通しは明るいものだとは言い切れません。

このような状況にあり、これまで考えてきた「まちづくり」を大きく転換せざるを得ない状況に陥っております。しかし、立ち止まっているわけには参りません。これまで原子力発電に依存してきた町から、「原子力発電所のある町ではなく、原子力発電所もある町」へと政策を展開していきたいと考えております。

平成23年5月に九州大学との共同研究施設である「玄海町薬用植物栽培研究所」をオープンし、甘草をメインに薬用植物の研究に取り組んでおります。また、平成25年7月には「次世代エネルギーパーク」も九州電力のエネルギー館に併設してオープン致します。この施設は、次の世代を担う子ども達に次世代のエネルギーを見て、触れて直接体験できる学習の場を提供するものであります。さらに、平成27年度には「全国棚田サミット」の開催も予定されております。全国からお越しいただくことは、玄海町の魅力の発信が出来るよい機会であり、これを今後の交流人口の拡大のきっかけとして、町の経済発展に繋がるよう取り組んでいきたいと思っております。

皆さんも一度機会がありましたら、是非玄海町へお越し頂きますようお待ち致しております。

# 車両共済（保険）のご案内

**（自動車総合保険の車両保険）**

この車両共済（保険）は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償（車両保険）」を追加する制度です。
お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済（保険）金をお支払いします。

## 町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら！

○無事故による割引で新規から **33％（保険料）割引**
（ご加入を希望するお車が町村生協の自動車共済で過去３年間無事故の場合は、ノンフリート等級９等級からスタートします。）

○集団扱年一括払いによる割引で更に **5％**

○保険料分割払（12回）も選択可能です。
（保険料分割払をご利用の場合は上記の集団扱年一括払の５％割引の適用はありません。）

## さらに

無料ロードサービスがついてきます。
ご契約のお車が、事故・故障で自力走行できなくなった場合、事前にロードサービス専用デスクにご連絡ください。JAFにお取り次ぎし、レッカーや30分程度の緊急修理などを手配します。
●バッテリー上がりや、キー閉じ込み、ガス欠など

◎１年間事故が無かった場合は、翌年の等級は１等級上がります。
事故によって車両共済（保険）をご利用された場合は、事故件数１件につき３等級下がります。

## 契約条件と掛金（保険料）例

・自動車総合保険（損保ジャパン）保険期間１年
・自動車保険集団扱年一括払による割引５％適用。

| | |
|---|---|
| 車名 | フィット |
| 型式 | GE6 |
| 初度登録 | 平成23年2月 |
| 年齢条件 | 26歳以上補償 |
| 運転者限定 | 本人・配偶者限定 |
| 記名被保険者 | 30才 |
| 新車割引 | 有 |
| 共済（保険）金額 | 150万円 |
| 払込方法 | 集団扱年一括払 |

| 加入タイプ | 自己負担額(免責金額)なし | 自己負担額(免責金額)5万円 |
|---|---|---|
| 一般条件（割引適用済） | 56,400円 | 42,710円 |
| （通常・新規で加入する場合） | 79,970円 | 60,570円 |
| 車対車＋Ａ（割引適用済） | 25,040円 | 18,960円 |
| （通常・新規で加入する場合） | 35,500円 | 26,880円 |

・上記掛金（保険料）は、町村生協の自動車共済で過去３年間無事故（ノンフリート等級９等級）の場合のものです。保険料は平成23年４月１日現在のものであり、変更される場合もあります。
・掛金（保険料）は、型式、初度登録年月、年齢条件、運転者限定特約の有無、共済（保険）金額、等級などにより異なります。
・上記掛金（保険料）例の「通常に新規で加入する場合」とは、ノンフリート等級６Ｓ等級を適用した保険料を例示したものです。
・このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については取扱代理店（千里）または損保ジャパンの営業店にお問い合せください。
※この車両共済（保険）をご契約いただける方は、全国町村職員生活協同組合の自動車共済に加入されている方に限ります。

## お見積りのご請求・お申し込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください。

**株式会社　千里（取扱代理店）**

●フリーダイヤル　**0120-731-087**　（受付時間　月～金　午前9時30分～午後5時）
お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください。
●FAX番号　**03-3519-7325**
●ホームページアドレス　**http://www.chisato-ag.co.jp**
〒100－0014　東京都千代田区永田町1－11－32　全国町村会館西館内

●「車両共済（保険）制度」は、全国町村職員生活協同組合と株式会社損害保険ジャパンとが集団扱契約を締結し、実施しているものです。
●集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパンの定める条件を満たす場合のみとなります。
詳細については、取扱代理店（千里）または損保ジャパンにお問い合わせください。

〈車両保険引受保険会社〉㈱損害保険ジャパン　　SJ10-13443(2011.3.18作成)

# 「絵本の里　けんぶち」が、映画「じんじん」に！

日本全体がバブルの好景気に沸いていた1988年、過疎化の進行に憂いを抱いていた剣淵町の青年たちが、『けんぶちをこころ豊かな・絵本のふるさとにしよう！剣淵を有名にしよう！』と思い立ち、旧役場庁舎を絵本の館として活用し、「絵本の里　けんぶち」のまちづくりを始めました。

町は、絵本の里を創ろう会の発足時から活動資金を助成するなど活動を全面的に支援してきました。舞台となった絵本の館は平成16年に新築オープン、世界中の絵本約45、000冊を収蔵し、「けんぶち絵本の里大賞」「絵本原画展」「読み聞かせ会」等を開催しており、全国どこへでも絵本の貸し出しを行っています。

▲「絵本の館」の中庭での大地さんと子供

4年前の秋、絵本の館に大地康雄さんがふとしたきっかけで訪ねた際に、絵本の読み聞かせが行われており、真剣に聞き入る子供たちの輝く瞳に感動、映画創りの取材が活発になりました。

翌年に入り、大地さんを迎えての懇談会、「恋するトマト」の上映会、山田大樹監督を迎えるなど、話がとんとん拍子に進み、いつの間にかロケハンもスタートしました。

剣淵町としても映画ロケを支える実行委員会を設立し、キャスト、スタッフの皆さんに喜んでもらえるよう体制を整えました。さらに剣淵町らしい、おいしい食事をしていただこうとお母さんたちによる炊出し部隊を結成しました。

剣淵の食材で、腕によりをかけてロケ中の昼食・夕食をつくり、ピーク時には100食近くも用意しました。お母さんたちも現場へ行くと、テレビでしか会えない大地さん、佐藤B作さん、中井貴恵さん達がいるということで、食事会は常に笑顔が絶えず、もちろん料理の味にも最大級の賛辞をいただきました。

ロケは順調に進み、無事にロケが終わり編集作業も終了し、ついに剣淵の映画「じんじん」が誕生しました。

札幌、東京等大都市では、この夏から順次劇場公開が始まりますが、大都市以外はスローシネマと言うことで、各地で実行委員会を設立していただき、ホールや公共施設で上映会を行う方式を取らせていただくことになっています。

この映画は、メーンロケ地の剣淵町、日本三景の宮城県松島町、東の小京都と呼ばれる栃木県足利市等においてオールロケで撮影されましたので、美しい風景が画面いっぱいに広がっていますし、ありのままの剣淵町を撮影したものであり、絵本を真ん中においた笑いあり涙ありの子供から大人まで楽しむことが出来ます。やさしさと切なさが〝じんじん〟と響くこの映画を皆さんの心へ届けたいと思っています。

▲絵本を読み聞かせる主演の大地さん

是非、ご覧頂き、全国の市町村で「じんじん」上映会をよろしくお願いいたします。そして、少しでも「絵本の里　けんぶち」を皆さんに知っていただけたらと願っています。

**問合せ先**
北海道上川郡剣淵町役場
経済課商工観光室
TEL　0165-34-2121